



学校法人
鎌倉女子大学

呉清源ごせいげんさんの指

尚先生の言葉

そして新しい年

主に活躍した時代は、戦前から戦後にかけてのことであるから、ご存じの方は、もうそう多くはないと思う。もっとも、棋聖きせいとも称せられた人であるから、今でも囲碁の世界にあっては神さまのように尊敬されているのではないかと想像する。それに、まだご存命でいらっしゃるのかも知れない。

昔、大叔父が呉清源さんから碁を教えてもらったということを聞いたことがあったが、祖母の話によると、大叔父は、内心そのことを相当自慢にしていたようである。確かに、「囲碁といえば、呉清源！」という程度には、その達人ぶりについては、幼い私にさえ伝説的な響きをもって聞こえてきたほどの棋士きしであった。

私が、呉清源さんの姿を見たのは、たった一度だけ、それも、呉さんの引退か何かを記念してNHKが制作したドキュメンタリー番組でのことである。もう、何十年も前のことなので、ほとんどのことは、おぼろげにしか覚えていないが、一つ印象深いことが今でも残っている。

囲碁は、相手の石を自分の石で囲むことによって陣地を獲得するという極めて簡単なルールに基づくゲームであるが、縦横19本ずつの直線が交差して織りなす、計361の交点によって構成される盤面上には、白と黒の石を並べあう局面に、361の階乗(361×360×・・・×2×1)のおびただしいヴァリエーションが成り立ち得る※。これほど単純な原理に基づきながら、またこれほど複雑に構成されたゲームは、他にないであろう。

そこで、囲碁の上達のために大切となるのは、まずもってさまざまな定石じょうせきというものを覚えなくてはならないということになる。勉強でも稽古ごとでもそうであるが、基礎・基本が出来ていない者に本当の発展も展開も望めない道理というものだ。だから、呉さんは、小さい頃より、定石を記した分厚い手引書を片方の手に置きながら、片方の手で石を並べ、疲れると、今度は反対の手に本を置きかえて、反対の手で石を打つというように、毎日～～繰り返し～～定石の修得に没頭したということである。しかし、それによって、呉さんの両手は、中指から小指にかけて外側にひどく反り曲がってしまうことになった。それを見て、私は、軽い驚きと感動を覚えたことがあった。一つの道に秀でる人の努力は、並大抵のことではない、自分は、一つのこと、これほど打ち込んで取り組んだことがあるだろうか。大きく湾曲わんきょくした呉さんの指のことを時々思い出すことがある。

囲碁については、留学時代に碁が好きな仲間が何人かいて、中には徹夜で囲碁に興じていた者もいたが、元々勝負ごとにあまり熱意がわからない私は、傍目八目おかめはちもくを決め込んで、遊び半分石の並べ方を教わった程度にしか過ぎさなかった。

後年、尚先生を存じ上げるようになってからのこと、先生のところに遊びに伺うと、夕食を待つ間など、「さあ、碁をやろう」と誘われて、見様見真似で、しばしば碁盤を囲んだものだった。ところが、結局碁の基礎・基本が出来ていず、詰めの読み切れない私は、いいところまでいくのであるが、一手及ばず、先生に石を囲まれてしまうのだった。もっとも、囲碁というものは、相手にいいところまでいっていると思わせながら、一手先んじて相手の石を囲んで、自分の領地を拡張していくところにゲームの妙味があるようなので、いいところまでいっていると思うこと自体が、そもそも不覚千万のことではあるのだが。

先生は、笑いながら、よく「一光さんは、攻めるばかりで、守りがないと」といわれたものだった。「親父は、創業の難と戦った。でも、守成また難しだ」と常々語られた尚先生から見ると、前しか見ない直情果断な男という印象をもたれたのかも知れない。

だが、こうして学園経営に携わるようになって、丸10年経ったが、何かの仕事に着手するたびに、その都度思い出すのは、尚先生の言葉である。「お前、守りは出来ているのだろうか」と。

平成の御世になって、20年が過ぎた。明けて新年は、平成22年、私の鎌倉生活も、次の10年という第2周期に入っていくことになる。第1周期は、量的拡大が質的充実を牽引する時代であった。聞こえてくる新しい政権の教育政策は、私たちに引き続き量的拡大を迫ることになるのかも知れない。それは、まだ判らないが、仮に実施されても、いつでも対応出来るだけの準備はしておかなくてはなるまい。しかし、時代がどのように動くにせよ、第2周期は、教育において、研究において、環境において一層の質的充実を自律的に目指す時代にしなければならないと思う。

また新しい仕事が始まる予感がしている。しかし、創造の予感をもつたびに、私は、自分に言い聞かせることにしている。「お前、守りは出来ているのだろうか」と。

※361の階乗とは、理屈上想定されることであり、碁は、白黒双方の石を置かない場所が生じるので、実際上の局面は、この限りではない。

[>前のページへ戻る](#)